



ROCK PAINT

108 ライン

ビニロック®ウレタン

水性一液架橋型ウレタン樹脂塗料

人と環境にやさしく
建物を強靱にガードする
多用途の水性ウレタン塗料

ホルムアルデヒド放散等級

F☆☆☆☆

居室内で無制限に使用できます。

特長

耐候性

従来の水性ウレタンから
グレードアップした耐候性を実現。

水性 ウレタン

低汚染性

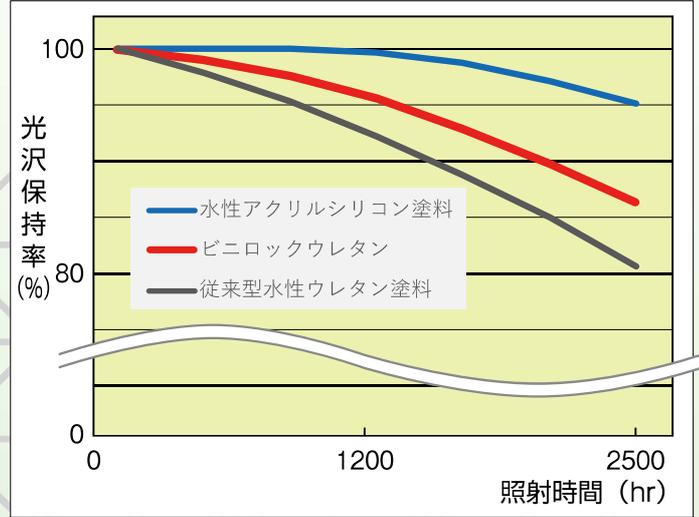
ばい煙や塵などの汚れが付きにくい
緻密な塗膜を形成します。

防藻性 防カビ性

藻やカビの発生を防止し、清潔な
住環境を維持します。

耐候性

促進耐候性試験（キセノンランプ法）



低汚染性

●耐雨筋汚染曝露比較試験

ピニロックウレタン
(水性ウレタン)



市販
水性ウレタン



水性ツヤ有り
(水性アクリル)



防藻・防カビ性

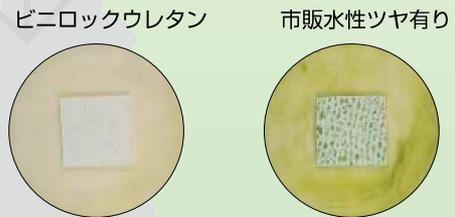
JIS Z 2911の試験方法を参考とした藻・カビ抵抗試験

①〈藻抵抗試験〉〔藻抵抗試験は蛍光灯を照射〕

	ブランク	1週間後	2週間後	3週間後	4週間後
ピニロックウレタン	-	-	-	-	-
市販水性ツヤ有り	-	±	±	+	+++

(試験菌)クラミドモナス、オーグレナグラシリス、クロレラ

藻抵抗試験結果(4週間後)



②〈カビ抵抗試験〉

	ブランク	1週間後	2週間後	3週間後	4週間後
ピニロックウレタン	-	-	-	-	-
市販水性ツヤ有り	-	±	±	+	+++

(試験菌)アスペルギルス、ペニシリウム、クラドスポリウム、グリオクラジウム、オーレオバシジウム

カビ抵抗試験結果(4週間後)



〈判定〉
 - : 試料面に生育が全く認められない
 ± : 試料面に生育がごくわずかに認められる
 + : 試料面の1/3以下に生育が認められる
 ++ : 試料面の2/3以下に生育が認められる
 +++ : 試料面の2/3以上に生育が認められる

用途

- 戸建住宅、集合住宅、商業施設など建築内外部壁面の
上塗り
- 各種旧塗膜、可とう形改修塗材など塗り替え用上塗り
- 屋内外鉄部、硬質塩ビ(雨樋など)

使用方法

- 希釈割合(重量比)
水で希釈してください。希釈割合は次の通りです。
ハケ、ローラーの場合 : 5 ~ 15%
エアレス塗装の場合 : 10 ~ 20%
- 標準塗付量
0.12 ~ 0.18kg/m²・回(ハケ、ローラー塗装の場合)
- 上塗り調色にはロックトーンカララント7000(ベースの7%以内、カララントシステム用のウィークホワイトIIはベースの15%以内、ニュートラルベースIIはベースの10%以上15%以内)を使用してください。

性能 (ビニロックウレタン ハイホワイト) JIS K 5660 つや有合成樹脂エマルジョンペイントを参考に実施

項目	規格	標準性状	項目	規格	標準性状
容器の中での状態	かき混ぜたとき、堅い塊がなく一様になること。	合格	耐水性	23℃水に96時間浸したとき光沢保持率80%以上で、塗面に異常がないこと。	合格
低温安定性(-5℃)	変質しないこと。	合格	耐アルカリ性	23℃飽和水酸化カルシウム溶液に168時間浸したとき光沢保持率65%以上で、塗面に異常がないこと。	合格
塗装作業性	2回塗りで、はけ塗り塗装作業に支障がないこと。	合格	耐洗浄性	1000回の洗浄に耐えること	合格
乾燥時間 (標準状態) (5℃)	2時間以内	合格	耐湿潤冷熱繰返し性	光沢保持率が80%以上で、湿潤冷熱繰返しに耐えること。	合格
	4時間以内	合格	促進耐候性	480時間の試験で光沢保持率が60%以上、白亜化の等級が1又は0で、色の変化の程度が見本品に比べて大きくないこと。	合格
塗膜の外観	塗膜の外観が正常であること。	合格	耐候性	12か月の試験で白亜化の等級は2、1又は0で、割れ、はがれ、膨れ、穴がなく、色とつやの変化の程度が見本品に比べて大きくないこと。	合格
隠ぺい率	95%以上	合格			
鏡面光沢度(60度)	70以上	合格			

◆ 塗り替え：外装材の塗り替え(シーラーを使用・コンクリート系下地)

工程	使用塗料	希釈剤	塗装方法、希釈率(%)	塗装回数	標準塗付量 (kg/m ² ・回)	塗り重ね可能時間 (23℃)
下地調整	旧塗膜のはがれ部分、ふくれ部分などは皮スキ、ワイヤーブラシなどのケレン具を用いて完全に除去する。また、エフロレッセンス、チョーキング部分、汚れなどは高圧洗浄などで除去し、乾燥した清浄面とする。					
下塗り ^(注1)	ロックカチオンシーラーマルチⅢ ^(注2)	(水)	ハケ、ローラー： エアレス：0% (通常不要)	1	0.07～0.13	3時間以上
上塗り	ビニロックウレタン 指定色	水	ハケ、ローラー： エアレス：5～15% 10～20%	2	0.12～0.18	2時間以上

◆ 塗り替え：外装材の塗り替え(窯業系サイディングボードなど)

工程	使用塗料	希釈剤	塗装方法、希釈率(%)	塗装回数	標準塗付量 (kg/m ² ・回)	塗り重ね可能時間 (23℃)
下地調整	旧塗膜のはがれ部分、ふくれ部分などは皮スキ、ワイヤーブラシなどのケレン具を用いて完全に除去する。また、エフロレッセンス、チョーキング部分、汚れなどは高圧洗浄などで除去し、乾燥した清浄面とする。					
下塗り ^(注3)	ロックSBフィラー	水	ハケ： ローラー：1～5% 1～5%	1	0.2～0.4	3時間以上
上塗り	ビニロックウレタン 指定色	水	ハケ、ローラー： エアレス：5～15% 10～20%	2	0.12～0.18	2時間以上

◆ 新設：鉄部[オール水性仕上げ](平滑仕上げ)

工程	使用塗料	希釈剤	塗装方法、希釈率(%)	塗装回数	標準塗付量 (kg/m ² ・回)	塗り重ね可能時間 (23℃)
素地調整	足場及び飛散防止シート(必要に応じ防音シート)を仮設し電動工具を主体として手工具を併用し、黒皮や赤サビを完全に除去する。日本道路協会素地調整程度「2種ケレン」、またはSIS St3。じんあい、水分、油脂分は完全に除去し、塗装しない箇所をマスクしてください。					
下塗り	ハイプライマーアークア ^(注4) 配合比 主剤：硬化剤=2：1	水	ハケ、ローラー： エアレス：0～5% 5～10%	1	0.14～0.16	4時間以上 7日以内
上塗り	ビニロックウレタン 指定色	水	ハケ、ローラー： エアレス：5～15% 10～20%	2	0.12～0.18	2時間以上

注1 下塗りにロックカチオンシーラーマルチホワイトを使用することもできます。

注2 ロックカチオンシーラーマルチⅢはカチオン型であり、他の水性塗料と混合するとゲル化しますので、絶対に避けてください。またハケ、ローラーなどの塗装用具の共用も避けてください。

注3 下塗りには可とう形改修塗材EのビニロックエラストックフィラーⅢなどもあります。

注4 ハイプライマーアークアにはグレーとホワイトがあります。

※ 仕様書の数値は標準的な塗装を行う際のもので、塗装時のロスを考慮に入れた数値です。素地の状態、気象条件、塗装方法などにより多少異なる場合があります。

【品種と容量】

色名	容量
ハイホワイト	15kg
ウィークホワイトⅡ	15kg
ニュートラルベースⅡ	15kg
調色品	15kg

【関連下塗・中塗塗料】

品名	容量
ロックカチオンシーラーマルチⅢ	15kg
ロックカチオンシーラーマルチ ホワイト	15kg
ロックSBフィラー	15kg
ビニロックエラストックフィラーⅢ	16kg
ハイプライマーアークア グレー	10kg
ハイプライマーアークア ホワイト	10kg
ハイプライマーアークア 硬化剤	5kg

品名	容量
ハイパーシーラーアークア 主剤(透明)	14kg
ハイパーシーラーアークア 硬化剤	1kg
ユメロックシーラー 主剤(透明)	12.5kg
ユメロックシーラー ホワイト 主剤	12.5kg
ユメロックシーラー 硬化剤	2.5kg
ハイパーシーラーエポ 主剤(透明)	12.5kg
ハイパーシーラーエポ ホワイト 主剤	12.5kg
ハイパーシーラーエポ 硬化剤	2.5kg

● ハイホワイト、ウィークホワイトⅡ、ニュートラルベースⅡはロックカララントシステム(店頭調色)用です。

施工上の注意事項

- 塗る面のゴミ、かび、こけ、油分、枯葉などの汚れや、エフロレッセンス、レイタンス、はがれかかった塗膜はよく取り除いてください。
- 気温が低いときや湿度が高い場合には、完全な塗膜ができにくく十分な性能を発揮できませんので、気温5℃以下、湿度85%以上での塗装は避けてください。
- 絶えず結露が発生するような場所、用途での使用は避けてください。
- 塗料全体をよくかき混ぜ、均一にしてから使用してください。
- 飛散防止のため必ず養生を行ってください。特に吹付け塗装の場合は注意してください。
- 補修部分が目立つことがありますので、補修塗りの場合は同一ロットの塗料を使用し、同一の塗装方法、希釈割合で行ってください。
- 塗装方法により多少色相が異なることがありますので、入り隅のハケ・ローラー境目はできるだけ奥までローラー塗装してください。
- ローラー塗りの場合、ローラー目は同一方向に揃えるように仕上げてください。ローラー目により色相が異なって見えることがあります。
- 作業能率の低下および塗りムラの原因になるため、スプレーノズルの先端は時々洗浄してください。
- ハケ・ローラーなどの塗装用具は水性用を使用してください。
- ハケ塗りやローラー塗りで仕上げが混在する場合、塗り肌が異なり、色相に差が出やすいので、ハケ塗り部分の希釈をやや少なめに塗装してください。
- 調色には必ずロックトーンカララント7000（ベースの7%以内、ウィークホワイトIIはベースの15%以内、ニュートラルベースIIはベースの10%以上15%以内）を使用してください。
- ざざ波模様など凹凸のある下地の場合、上塗りの隠ぺい性が十分発揮できず、塗装回数が増えたりする場合がありますので注意してください。
- 降雨、降雪、強風などの場合、または天候不良が予測されるときは外部の塗装を避けてください。
- シーリング材の上に塗装する場合、シーリング材の種類、劣化度により付着不良、収縮われなどを起こしたり、表面が汚れたりすることがあります。状況によっては、シーリング材用プライマー「ロックノンタックプライマーS」を塗装してください。塗膜の汚染・剥離・はがれ・割れの低減が図れますが、シーリング材の種類によっては汚れ、付着不良が発生する場合がありますので試し塗りすることをお奨めします。なお、ノンブリードタイプのシーリング材に「ロックノンタックプライマーS」は塗装しないでください。
- エマルジョンパテの外部での使用は避けてください。
- 外部の塗装について、塗料臭気が室内に入らないように換気装置などを停止し、開口部などの養生を行ってください。
- 塗装面の取り合い等で可塑剤が多く含まれる建材（塩ビ鋼板、ラミネート鋼板、プラスチック、ゴムパッキン、塩ビクロスなど）への直接の塗装は塗膜が軟化することがあり避けてください。また、これらの素材に塗膜が接触・付着しないように注意してください。
- 蓄熱されやすい建材（乾壁モルタル、ALC、窯業系サイディング、その他の断熱性が付与された建材など）を使用した高断熱型住居の外装を塗装する場合、状況により蓄熱、水分、素地、下地の状態、塗装環境など複数の条件が重なることで、素地の変形、塗膜のふくれ、はがれなどが発生する場合があります。詳しくは最寄りの営業所にお問い合わせください。
- 笠木、天端など長時間の滞留する箇所では塗膜の白化、ふくれなどが発生する場合がありますので、養生シートの設置方法などに配慮し、換気を促してください。
- 比較的緻密な素材である押出成形板やGRC板へ塗装する場合は、ユメロックシーラー、ハイパーシーラーエポ、ハイパーシーラーアークアを下塗りとして使用してください。
- サイディングボード表面に反り、うねりが発生している場合は、ヒスの増す打ちなど状況に応じた補修を行ってください。また補修が困難な場合はボードの張り替えを行ってください。
- フッ素コート処理をはじめ無機系や光触媒処理のサイディングボードには、ハイパーシーラーエポ、ハイパーシーラーアークアを下塗りとして使用してください。
- 新しいコンクリート、モルタルなどのアルカリ性素材は、含水率10%以下、pH9.5以下になるまで十分に乾燥させてください。
- 屋外セメント系素材に段差・巣穴などがある場合は、セメントフィラーを用いて不陸調整を行ってください。
- ビニルエラストックフィラーⅢを砂骨ローラーで塗装する場合には、最初に配り塗りを行い、その後ならし塗りを行い、塗り継ぎにむらが生じないようにしてください。
- 吸い込みの著しい部材については、標準塗付量より多くなる場合があります。シーラー塗装は「ぬれ感が出るまで」を目安に塗装してください。
- シーラー塗装後、塗装仕様の塗り重ね可能時間よりも早く上塗り塗装を行うと、ちぢみ、ひび割れ、塗膜不良を起こすおそれがありますので、塗り重ね可能時間は守ってください。

安全衛生上および取扱上の注意

【製品の危険・有害性】

- 引火性など危険性のほとんどない製品ですが、目や呼吸器に入ることは避けてください。

【救急処置】

- 目に入った場合には多量の水で洗い、できるだけ早く医師の診察を受けてください。
- 誤って飲み込んだ場合には、できるだけ早く医師の診察を受けてください。
- 蒸気、ガスなどを吸い込んで気分が悪くなった場合には、空気の清浄な場所で安静にし、必要に応じて医師の診察を受けてください。

【施工後の安全性について】

- 本製品は揮発性の化学物質を含んでいますので、塗装直後の引き渡しの際は、施主に対して安全性に十分注意を払うようご指導ください。
- 不特定多数の方が利用する施設を施工した場合は、ベンキ塗りたてであるなどの立看板等を設置し、化学物質過敏症ならびにアレルギー体質の方が接する事のないようご配慮願います。

- 下塗り乾燥後、素地との付着性をガムテープなどで確認し、はがれが認められる場合は再度下塗り塗装を実施してください。
- サビについては完全に除去後、削りカス（サビ、鉄くず）を完全に除去してください。サビの発生原因となります。
- シーラー類や各種上塗り塗料には防錆性がないため、金属製の部分が錆びている場合、錆などを除去、ケレンし、適性のあるサビ止め塗料を下塗り後、上塗り塗装を実施してください。
- 溶接接合部や下塗りにキズがある場合は、その部分が塗膜不良となりやすいので、素地調整後、適性のあるサビ止め塗料で補修塗装を行ってから下塗り塗装してください。
- カウンター、テーブル、いす、棚、床等への塗装は避けてください。
- 塗装作業中および乾燥中は換気を十分行い、その後も塗膜が完全に乾くまでの間は、ときどき換気を行ってください。
- 塗色が濃色の場合、塗膜を強くすると色落ちすることがありますので注意してください。
- 使用後のハケなどの用具や、手に付いた塗料はできるだけ早く水で洗い落してください。乾くと落ちにくくなります。
- 塗装後24時間以内に降雨、結露があった場合、白化やシミが残る場合があります。また、低温時や高湿度、通風が悪い場合も白化やシミになる場合があります。
- 改修塗装の場合、素地の種類や下地処理方法によって塗膜不良となる事があります。あらかじめ適切な処理を行い試し塗りすることをお奨めします。
- 改修塗装の場合、脆弱な旧塗膜、汚れ、チョーキングなどはディスクサンダー、皮スキ、ワイヤーブラシなどで除去し、高圧洗浄を行った後、24時間以上乾燥させてください。（気温23℃、湿度65%の場合）
- 下地、旧塗膜が脆弱な場合、また素材が強アルカリ性であることが予想できる場合は、弱溶剤型のシーラーを使用してください。
- 改修塗装で弱溶剤型のシーラーを使用した場合は、旧塗膜の種類によっては溶剤の影響により、ふくれ、ちぢみなどが発生することがありますので、試し塗りをしたうえで本塗装を行ってください。
- 旧塗膜が弾性系の塗膜（弾性リシン、弾性スタッコ）やアクリル樹脂エナメルなどの場合、すでにふくれが発生していることがあります。そのまま塗装するとふくれが拡大することがありますので、ふくれ箇所は完全に除去してください。
- 旧塗膜は弾性系塗料でビニルエラストックフィラーⅢを使用している塗替えを行う場合、後の工程で吹付タイル（硬質タイル）は使用しないでください。クラックが生じる場合がありますので弾性系の塗材を使用してください。
- 塗色は標準的な塗装を行う際のもので、標準塗付量は塗装時のロスを考慮に入れた数値です。素地の状態、気象条件、塗装方法などによって異なる場合があります。
- 塗り重ね可能時間（乾燥時間）は塗装現場の温度、湿度、風通し、素地の状態などにより、多少変わります。
- 各工程の塗装間隔や塗付量、希釈量を守らなかった場合塗膜不良となる事があります。また、各工程において当社指定以外の材料を使用した場合は十分な性能が得られないことがあります。
- カタログに記載されていない素地及び塗装方法、工程で施工する場合、塗膜欠陥を起こすことがありますので、使用する前に最寄りの営業所へお問い合わせください。
- この塗料はホルムアルデヒド放散等級F☆☆☆☆タイプです。F☆☆☆☆以外の材料（被塗物、素地を含む）を使用したり、各工程の塗装間隔や塗付量、希釈量を守らなかった場合、F☆☆☆☆でなくなることがありますので注意してください。
- 上塗りに鮮やかなエポ系、レッド系、ブルー系、グリーン系の塗色で仕上げる場合、塗膜の隠ぺい性が弱い傾向にあるため、先に隠蔽性のよい共色（近似色）で下塗りした後、上塗り塗装してください。
- 低汚染性については被塗物の種類や建物の形状により、また、施工後特に塗膜が十分に乾燥する前、もしくは乾燥して初期の段階で天候不良であった場合、その効果が十分に発揮されない場合があります。
- 防藻・防カビ効果は繁殖を抑制するため、既に発生している被塗物には、下地処理として除去および防藻・防カビ処理剤などで殺菌処理した後、塗装してください。
- このカタログに記載されている下塗り塗料などの詳細な使用方法については、それぞれ別のカタログをご参照ください。
- 取扱の際は製品容器の注意書き、製品カタログおよび安全データシート（SDS）をよく読み、注意事項を厳守してください。

【取扱注意事項】

- 塗装中、乾燥中ともに換気をよくしてください。
- 取扱いはできるだけ皮膚に触れないようにし、必要に応じて保護手袋、保護メガネ、保護マスクを着用してください。
- 取扱後は、手洗い及びうがいを行って、作業着等に付着した汚れをよく落とすください。
- よくふたをし直射日光を避け、5℃以上40℃以下の安全でかつ子どもの手の届かない一定の場所に保管してください。
- 容器は中身を使い切ってから破棄してください。
- 廃棄の際は関係法規に従って産業廃棄物処理業者に委託し処理してください。

※安全データシート(SDS)をよく読んでからご使用ください。

ロックペイント 株式会社

東京営業部 〒136-0076 東京都江東区南砂2-37-2
TEL (03)3640-6000 FAX (03)3640-9000

札幌営業部 〒003-0011 札幌市白石区中央一条4-3-48
TEL (011)812-2761 FAX (011)812-9304

仙台営業部 〒983-0044 仙台市宮城野区宮千代2-3-11-201
TEL (022)349-8677 FAX (022)283-3255

西関東営業部 〒229-1131 神奈川県横浜原市西橋本1-15-16
TEL (042)700-3111 FAX (042)700-3112

大阪営業部 〒555-0033 大阪市西淀川区姫島3-1-47
TEL (06)6473-1650 FAX (06)6473-1000

名古屋営業部 〒454-0059 名古屋市 中川区 福川町1-1
TEL (052)351-6500 FAX (052)361-7433

岡山営業部 〒701-1134 岡山市北区三和1000-3-4
TEL (086)294-1201 FAX (086)294-6966

福岡営業部 〒811-0119 福岡県糟屋郡新宮町緑ヶ浜3-2-1
TEL (092)962-0661 FAX (092)963-1241

URL <https://www.rockpaint.co.jp>

※本カタログの内容については、予告なく変更することがありますのであらかじめご了承ください。
また記載内容について、法律で認められる範囲を超えての転載・複製を禁止します。

販売店